

作例のポイント

Case Study Points



「HTML&CSS コーディング・プラクティスブック 4」の作例におけるポイントや使用するテクニックなどについてまとめましたので、参考にしてください。

総括

今回作成するページはワンカラムのシンプルなレイアウトで、細かな装飾的要素もありません。指示書による指示も少なく、複雑な設定も必要ないことから、基本的なHTML&CSSを使用して構築していきます。フォントの設定やマージンの取り方など、コーディングの基礎中の基礎がポイントとなります。



複数ページに共通したパーツの設定はまとめて管理

ヘッダー、フッター、ボタンなど、複数のページに共通したパーツの設定はサイト全体でまとめて管理します。



```
/* ヘッダー&フッター */  
.header { ... }  
.footer { ... }
```

```
/* ボタン (基本) */  
.btn { ... }
```

構造が共通したパーツの設定もまとめて管理

構造が共通したパーツの設定も、サイト全体でまとめて管理します。文章やボタンの有無によっても、CSS を修正する必要がないように設定します。



見出し
+
文章



見出し
+
ボタン



見出し
+
文章
+
ボタン

見出しや文章のフォント設定もまとめて管理

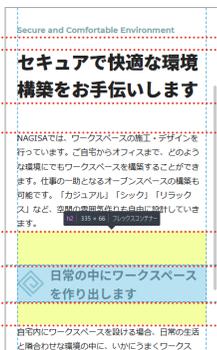
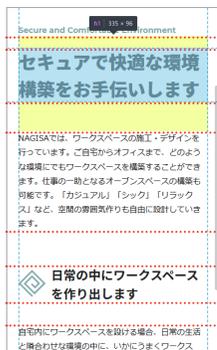
各パーツの見出しや文章のフォント設定にも共通した箇所が多く見られます。そのため、サイト内の主要コンテンツである「記事」パーツの見出しや文章の設定をベースに、サイト全体でまとめて管理します。



```
/* 基本:フォント */
body { ... }
h1 { ... }
h2 { ... }
p { ... }
```

記事の見出しや文章の間隔は上下マージンで調整

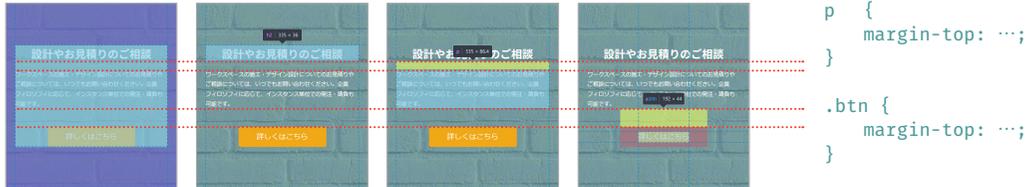
記事パーツの見出しや文章の間隔は「マージンの重ね合わせ」を活かして上下マージンで調整します。これにより、上下マージンを持たない要素が追加されても一定の間隔が保たれるようになります。



```
h1 {
  margin-top: ...;
  margin-bottom: ...;
}
p {
  margin-top: ...;
  margin-bottom: ...;
}
h2 {
  margin-top: ...;
  margin-bottom: ...;
}
```

記事以外の見出しや文章の間隔は上マージンで調整

記事以外の見出しや文章の間隔はパーツによって様々なため、上マージンで調整します。文章やボタンを削除してもレイアウトが維持されるようにしたり、重ね合わせが行われないパディングや Flexbox との間に余計な余白が入るのを防ぐ効果もあります。



横幅可変&最大幅固定でレスポンスを設定

レスポンスに関しては、「モバイルと PC のデザインを切り替える」ことと、横幅の最大値のみが指示されています。ブレイクポイントはこちらにまかされており、「可変 (Fluid / リキッドレイアウト) にする」といった指示もありません。そのため、可変にするのが難しそうであればモバイル版と PC 版のレイアウトを固定幅で作り、ブレイクポイントで切り替えるという方法も選択できます。

しかし、今回は各パーツの作りがシンプルなため、本書の作例では横幅を可変にし、最大幅で固定する形でレスポンスにしています。



固定幅と可変幅を混在させたレスポンスでレイアウト崩れを防ぐ

画像とテキストを横並びにするパーツでは、横幅を可変にするとレスポンスで全体のバランスやレイアウトが崩れるといった問題が発生しやすくなります。

この問題を回避するため、本書の作例では画像とテキストのうちどちらか一方のみを可変にします。どちらを可変にするかはパーツに合わせて判断します。



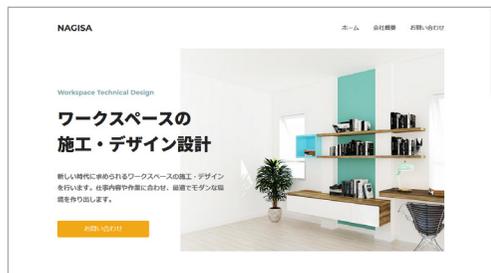
画像=可変
テキスト=固定



画像=固定
テキスト=可変

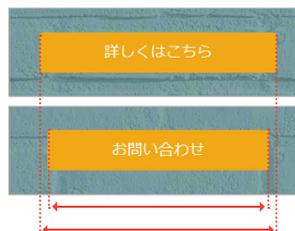
マイナスマージンでテキストの一部を画像に重ねてレイアウト

ヒーローヘッダーの画像とテキストは、Flexbox で横並びにしたあと、マイナスマージンを使って重ねます。



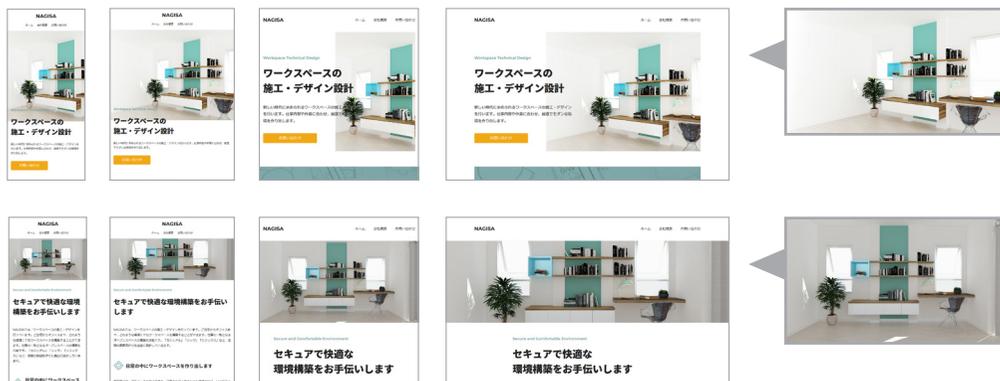
ボタンのサイズは中身に合わせて変わるようにする

デザインカンパに従い、ボタンのサイズは中身のテキストに合わせて変わるように設定します。



画像の切り抜きにはobject-fitを使用

今回は IE11 対応が必須ですが、「Polyfill 使用可」と指示されています。そのため、レスポンシブで切り抜きが必要な画像も で表示し、IE が未対応な object-fit で処理しています。IE では Polyfill を使って object-fit を機能させます。



メッセージパーツの画像は背景画像として表示

メッセージパーツの画像はテキストを重ねたレイアウトにするため、背景画像として表示し、ボックスに合わせて切り抜きます。

